

「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里北中学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語A・B」、「数学A・B」、「理科」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

(1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 数学A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 数学B, 理科
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

(2) 生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立中学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A (知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語B (活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	B
数学A (知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	B
数学B (活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	B
理科 (知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

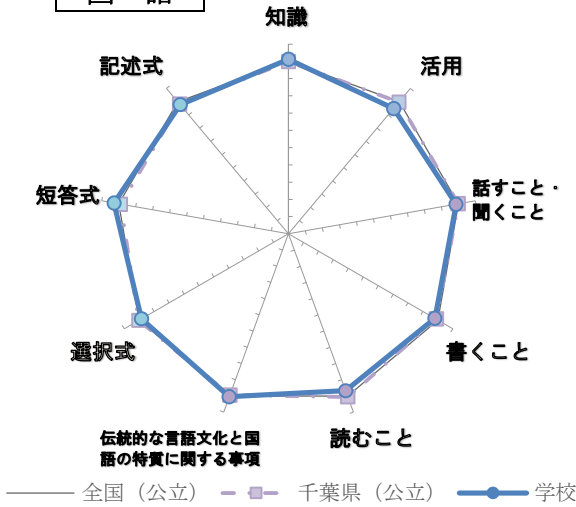
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



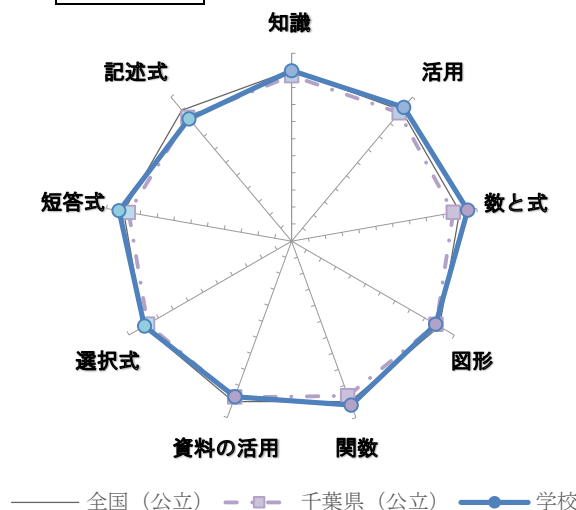
【特徴と現状】

- 全体的には、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 「短答式」の問題形式において良好な成績を収めています。特に語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題において全国平均を上回っています。
- 「活用」の問題については全国平均を少し下回っています。
- 文章の構成や展開について自分の考えをもつ問題において課題が見られました。

【改善方策等】

- 漢字の読み書きや語句の意味の理解など、基本的な力が身につけてきています。引き続き、日常的な漢字練習等を取り入れて行きます。
- 説明や発表をする機会を多く設定し、自分の伝えたいことをまとめて分かりやすく伝える指導を充実させて、自分の考えを人に伝える力を身につけさせていきます。
- 読書活動を充実させ、文章を多く読む活動を通して、読解力の向上を目指してまいります。

数学



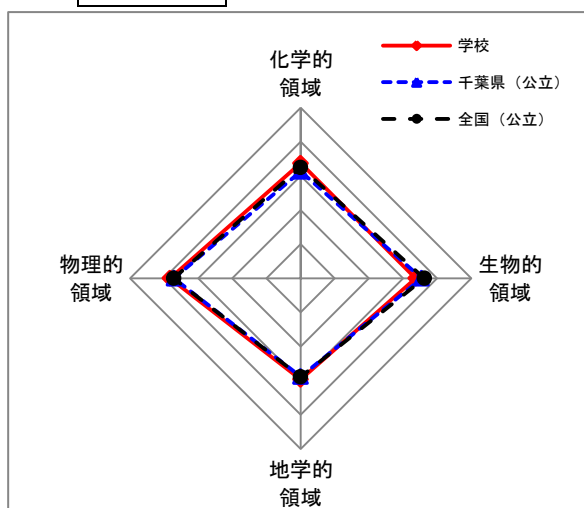
【特徴と現状】

- 全体的には、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 「短答式」や「選択式」の問題において良好な成績を収めていますが、「記述式」の問題に課題が見受けられます。
- 連立方程式やその解、グラフの交点の座標についての問題など、「数と式」や「関数」の分野については良好な結果でした。
- 「図形」の分野では三角形の合同条件についての理解に課題が見受けられました。

【改善方策等】

- 「数と式」や「関数」の分野については基礎的な力はついてきています。そこで、思考力を高めるための工夫を行い、応用問題への対応ができるようにしていきます。
- 三角形の合同条件など「図形」分野での基本的な事項の理解を図り、証明の問題に繰り返し取り組んで、論理的に試行する力を養ってまいります。
- 数学を苦手としている生徒や有用感を持たない生徒の割合が多くなっています。身近な生活と結びつけた授業の工夫を行い、前向きに取り組もうとする姿勢を持たせていきます。

理科



【特徴と現状】

- 全体的には、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 「選択式」と「記述式」の問題は全国平均をわずかに上回りましたが、「短答式」の問題ではわずかに下回りました。
- 「物理的領域」「化学的領域」「地学的領域」については比較的良好な結果でしたが、「生物的領域」については課題が見られました。
- 化学変化を原子や分子のモデルで説明する問題については良好な結果でした。
- 刺激と反応についての理解に課題が見られました。

【改善方策等】

- 興味関心を持って学習に取り組めるよう、身近な自然現象を提示したり、実物・モデル・視聴覚機器等を活用したりして、授業の導入をさらに工夫していきます。
- それぞれの単元における重要な用語についての指導を丁寧に行ってまいります。
- 神経系の働きについての知識を定着させるとともに、刺激と反応についてモデルを利用して考察する場面を設けます。
- 今までの知識や経験と実験・観察の結果とを比較して考察したり、グループでお互いの考えを討議したりする場面を設け、深い学びを目指してまいります。

(3) 生徒質問紙の結果及び分析

家庭生活において、「朝食を毎日食べている」生徒の割合や「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」生徒の割合が全国平均と比較してやや下回っており、不規則な生活になっている生徒も見受けられます。「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」生徒は教科の調査結果も良好である傾向があり、相関関係が見受けられました。

家庭学習においては「普段の学校の授業以外の学習時間（塾等での学習も含む）」が多い生徒の割合は、全国平均を上回っています。特に2時間以上学習している生徒が多く見受けられ、学習習慣が身につけている生徒が多いことがうかがえます。家庭学習の時間が多いと回答した生徒は教科の調査結果も良好である割合が高く、明確な相関関係が見受けられました。一方で、「普段の学校の授業時間以外の読書時間」は、全国平均を下回っており、全く読書をしない生徒の割合が多くなっています。

本校の特色として「学校の規則を守っている」や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は、どの調査においても正答率が高くなる傾向にありました。また、「自分には、良いところがある」と回答する生徒が多く、一方で「将来の夢や目標を持っている」という質問に対して当てはまらないと回答する割合が多くなっています。

3 まとめ

- 基本的な生活習慣については、全体的にやや全国平均を下回っています。特に「毎日同じくらいに寝ている」と答える生徒の割合が少ない傾向にあります。規則正しい時間で生活ができていることが、学習面に向かう姿勢への支えとなってきますので、ご家庭でのご協力もお願いいたします。

- 家庭学習については、「学校の授業以外の学習時間」が全国平均を上回り、「家で予習や復習をする」生徒の割合も大幅に上回っています。本校では、家庭学習について入学時より「家庭学習ノート」の活用を薦め、毎日継続して取り組むよう生徒への呼びかけを重ねてきました。それに応えて生徒が努力をした結果、普段からの学習習慣が身につけてきていると考えられます。一方で「家で学校の宿題をしている」生徒の割合や「家で計画を立てて勉強している」生徒の割合は全国平均を下回っています。さらに向上を目指すため、「自分で計画を立てて勉強する」ための手立てを、定期テストの学習計画作成などの機会を捉えて進めてまいります。日々の積み重ねが学力の向上に結びつくと考えられますので、ご家庭でのご協力もお願いいたします。

- 「学校の規則を守っている」と答えた生徒や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた生徒が多く、自他共に大切にして、向上しようとする姿勢が感じ取れます。今後、さらに学校生活の様々な場面で視野を広げるような活動を取り入れた指導、支援をして生徒の長所を伸ばしていきたいと考えています。

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表すること」について苦手意識をもつ傾向があります。本校では「話す・聞く」ことに重点をおいて、各教科でグループでの話し合い活動を取り入れたり、自分の考えやグループでまとめたものを発表する機会を授業に取り入れることで、少しずつ力をつけ、向上させていきたいと考えています。